

育てます豊かな食とみどりの東京



農 総 研 だ よ り 創刊号

平成19年7月発行

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

創刊のお知らせ

平成17年度、農林総合研究センター（農総研）は東京都農業試験場、畜産試験場、林業試験場の3場を統合して設立されました。翌年には都立食品技術センターを統合して農林業から食品産業、生産から加工・消費まで幅広く対応できる公設の総合研究機関として生まれ変わりました。

これを機に「農総研だより」を刊行して、農総研の仕事を分かりやすくご紹介したいと考えています。今後も各研究単位の担当者を中心に、研究内容やホットな話題、トピックスなどをお知らせする予定です。

“花マット”で街に彩を！！

都市のヒートアイランド現象緩和のための需要が増えつつある現状ですが、景観に配慮した屋上および壁面緑化が少なく、都民からは観賞性の高い植物種が求められてきました。そこで、積載軽量で、薄層基盤植物として開発されましたのが「花マット」です。草花を薄いトレイで生育させることで、根をマット状に形成させたもので、都市空間を彩る新しい素材として注目されています。垂直や傾斜面でも利用が可能なことから、これまで緑化が困難であった建物でも利用できるなど、広範囲な場面での需要が期待されています。今春には、農業改良普及センターの指導により若い生産者でつくる「東京花マット研究会」が設立されました。〔生産技術科・都市環境科〕



「ジャパンフラワーフェスティバルさいたま 2007」のコンテストで金賞（平成19年6月1～3日・さいたまアリーナ）



「東京花マット」の特性を生かした都市の空間緑化 主催：ソニービル 協力：都農林水産振興財団（平成19年6月18～24日・中央区銀座）

都内で「トマト黄化葉巻病」が発生しました。ご注意ください！！！！

昨秋、都内のトマト施設栽培から、都内では未発生のトマトイエローリーフカールウイルス（TYLCV）を検出し、本症状が「トマト黄化葉巻病」であることが判明しました。本病は、初め上位葉がやや淡緑化し、わずかに葉表側に反り返り、症状が進行すると、上位葉は葉脈間が黄化、小型化すると同時に、全身の葉が顕著な葉巻症状を呈します。ここ数年の間に各地のトマト生産地で大きな被害を生じており、関東近県でも、すでに発生が確認されています。本病はタバココナジラミ類により伝搬されるため、防除対策として、①施設開口部に目合0.4mm以下の防虫ネットを展張し、本虫を施設内へ入れない、②粘着トラップを設置し、本虫の発生状況を監視する、③発生が確認された場合には薬剤防除を徹底する。その際、近紫外線除去フィルムの展張も補助的な防除手段として併用する。保毒虫は永続的にウイルスを伝播するため、④栽培終了時には蒸し込みを行い、本虫を死滅させて施設外への分散を防ぎます。当センターでは、今後、発生状況等を詳細に調査していきます。〔安全環境科〕



葉巻症状を呈した葉



同左（拡大図）



タバココナジラミ

写真提供
南多摩農業改良センター
大林隆司氏

“春まきコカブ” の部：「夏はくれない」が1等に！

■東京都種苗研究会主催第49回野菜・花き種苗改善審査会“春まきコカブ”の部

1. 出品点数 15点（うち、市販されている参考品種4点）
2. 栽培概要 平成19年4月11日播種、ベッド70cm、通路50cm、条間15cmの4条に12cm間隔で3粒播き、間引きは4月20日に2株に、5月1日に1株に行ない、最終株間は約12cm（27,800株／10a）としました。播種後、パスライトによる「べたがけ」およびトンネル被覆（タフベル4000N）し、4月16日に「べたがけ」、5月14日にトンネルを除去しました。肥料は、4月11日に化成8号および重焼燐2号で、10aあたり成分量でN：P₂O₅：K₂Oを15kg：20kg：15kg施用しました。病虫害防除は、東京都病虫害防除指針に従い、フォース粒剤（4月11日）、スピノエース（5月2日）、ハチハチ乳剤・Zボルドー水和剤（5月16日）を使用しました。
3. 審査結果 審査は、種苗メーカー、都農業関係職員など16名の審査員が立毛100点、収穫物300点の配点で行いました。審査結果は、表の通りでした。〔商品開発科〕

等級	品 種 名	出 品 社
I	夏はくれない	みかど協和(株)
II	ゆきわらし	カネコ種苗(株)
III	TU-11	日本農林社(株)
III	CR鷹丸	(株)武蔵野種苗園



立毛審査の様子
（立川庁舎園場）



収穫物審査の様子



収穫物の陳列

“マリーゴールド” の部：「デュランゴ オレンジ」が1等に！

■東京都種苗研究会主催第49回野菜・花き種苗改善審査会“マリーゴールド”の部

1. 出品点数 16点（うち、市販されている参考品種3点）
2. 栽培概要 平成19年3月20日播種、288穴セルトレーへ市販の用土を詰め、1穴1粒播きとし、夜温20℃の室内で育苗後、4月3日に3.5号ポリポットへ3株及び4株植え管理しました。鉢用土は、農総研標準培土100ℓに元肥の成分量でN：P₂O₅：K₂Oを44g：21g：40gを緩効性肥料と過リン酸石灰で施用しました。追肥は、5月8日に緩効性肥料を1錠（鉢当たり）施用しました。病虫害防除は、東京都病虫害防除指針に従い、オルトラン粒剤（3月20日）、アフーム乳剤（5月7日）を使用しました。
3. 審査結果 審査は、種苗メーカー、都農業関係職員など14名の審査員が各区100点、合計200点の配点で行いました。審査結果は、次の通りです。〔生産技術科〕

等級	品 種 名	出 品 社
I	デュランゴ オレンジ	(有)東京花壇
II	ボナンザ イエロー	(株)ミヨシ
III	ボナンザ ボレロ	(株)ミヨシ

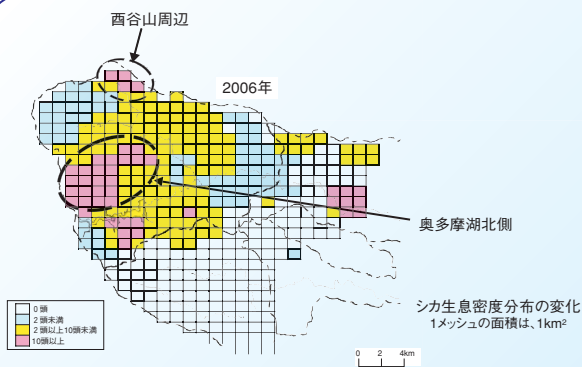


審査の様子
（立川庁舎鉄骨ハウス）



マリーゴールドの生育状況

シカの糞数から頭数を推定！



奥多摩町などでは、ニホンジカによる森林被害が多発しています。この被害を事前に防止するには、シカがどの地域に多く分布するのかを把握しておくことは、極めて重要です。そこで、糞粒法というシカの糞数から頭数を算出する手法を用いて、生息密度分布図を作成しました。平成18年、奥多摩湖の北側や西谷山周辺に高密度に生息していることが分かりました。この結果は、捕獲事業や今後のシカ保護管理計画に活用されています。現在、シカの侵入防止柵についても研究開発を進めています。〔都市環境科〕

大盛況だった“春の家畜ふれあいデー”

4月14日（土）～20日（金）農総研「春の施設公開」が催されました。立川庁舎、青梅庁舎、江戸川分場、食品技術センターで、それぞれ工夫を凝らして講演会や展示、即売会を行いました。中でも青梅庁舎で開催された「春の家畜ふれあいデー」には、来場者が5,000人を超え、大盛況のうちに終了しました。また、「乳牛のコンテスト」も同時開催され、一般の見学者にも分かりやすく説明していただきました。秋の財団フェアは、10月20日（土）に開催予定です。多くのお客様のお越しをお待ちしております。〔研究企画室〕



ヒヨコとのふれあい



乳牛のコンテスト



搾乳体験

夏に強く高品質な“ブルーベリー”の育成始まる！

近年、ブルーベリーは、都内の直売果樹として生産が伸びる一方で、春の花、秋の紅葉など季節を通した観賞性としての需要への期待が高まっています。農総研では、東京ブランド農産物を開発しようと、夏の暑さに強く、味に優れ、都内の環境に適合するブルーベリーの品種育成に取り組んでいます。今春には、系統選抜した種間雑種への戻し交配を約2,700花および野生種との種間交配を約250花行い、未熟花から胚珠を摘出して培養を始めています。〔商品開発科・生産技術科・都市環境科〕



ハイブッシュブルーベリー
‘スパルタン’の花

伝統野菜「亀戸ダイコン」の収穫延長が可能に！

亀戸ダイコンは、早春の端境期から出荷するのが慣行ですが、今回、収穫期間の拡大を狙った栽培試験に取り組みました。施設内の最高気温を35℃に設定した高温ハウス区および同じく30℃以下の気温を目標とした慣行ハウス区の2棟を使用し、各ハウスにはトンネル（ベルツーク900N）を設けました。播種日は平成18年2月6日、3月8日および4月5日。その結果、2月播種では慣行ハウス区で、3月播種では高温ハウス区で高品質なものが収穫できました。また4月上旬播種も高温管理（夜温）により抽苔前の収穫が可能になったことがわかり、在来系の亀戸ダイコンは、高温ハウス区、特にトンネル被覆による最低気温の上昇によって5月中旬まで収穫が可能になることがわかりました。〔江戸川分場〕



白茎が特徴の亀戸ダイコン

インドネシアと東京の美味しいコラボレーション！生“テンペ”誕生！

テンペは、インドネシアの伝統的な大豆発酵食品です。蒸煮した大豆にテンペ菌と呼ばれるクモノスカビ（学名 *Rhizopus oligosporus*）を作用させて製造します。発酵後には、白い綿毛のような菌糸に大豆が包まれます。発酵による味や香りの変化はわずかで、未加熱でそのまま食べますと豆の旨味が生きています。インドネシアでは、通常、加熱・調味して食されており、日本でもテンペ料理のレシピに関する本が出版されています。

食品技術センターでは、都内企業（株式会社登喜和食品）と共同で、クモノスカビのほかに特定の乳酸菌を併用する新製法のテンペ様食品を開発しました（特許出願中）。風味の向上と製造方法のシンプル化を図っています。日本での市販テンペの多くは、保存性を高めるために発酵後に加熱殺菌され風味が変化しがちですが、共同開発製品は、生のテンペの美味しさも味わっていただけるように、発酵後未加熱で出荷される予定です。この新製法テンペは、平成19年度内の発売開始を計画しております。〔食品技術センター〕

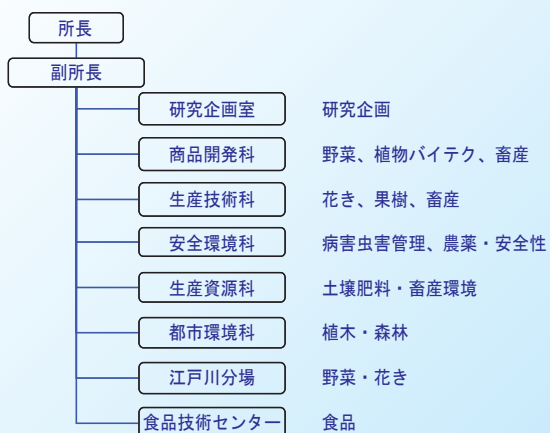


企業での“テンペ”製造風景



黒大豆と白大豆を用いた“テンペ”

農総研のご紹介



頑張っています！農業技術研修生

平成19年度は、4名の農業技術研修生を受け入れました。専攻は全員、野菜です。研修生それぞれのテーマについて担当の研究員の指導を受けながら勉強し、来年3月にはレポート提出と成果発表を行う予定です。研修テーマは①トマトの抑制栽培と育苗、②UVカットフィルムと有機質肥料を用いたコマツナ栽培、③ナスの障壁（バンカー）利用栽培、④条間、株間を変えたスイートコーン栽培です。実りある研修となることを願っています。〔研究企画室〕

農機・資材検討会（展示会）のお知らせ

毎年、好評になっています都野連主催・JA全農とうきょう共催の「農機資材検討会（展示会）」は、8月8日（水）～9日（木）の両日、農総研の多目的広場などを使って開催されます。当日は、トラクター、耕耘機、防除機、農業をはじめ、各種の農機・資材が展示されますので、ご自由に見学してください。

開催時間：9時～16時。

（発行者）東京都農林総合研究センター 三輪啓太郎
 財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター
 〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285
<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html>
 皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。